

静岡県浜松市立東小学校 山崎章成

### 1. 静岡県を探せ!

子どもたちが初めて地図帳を手にしたときから、どの子にも地図帳のおもしろさを味わわせたいと願い、私は、4年の4月当初に地図帳を楽しむ授業を1時間行うようにしている。最初の授業で地図帳をまるごと見わたし、地図帳にはどんなことが書かれており、どんなことに利用できそうかというイメージをもつことができれば、その後の授業で子どもたちが地図帳を進んで使うのではないかと考える。そのカギになる発問が「自分たちの住んでいる静岡県を地図帳の中からみつけよう」である。

### 2. 地図帳には、いろんな静岡県がいっぱい

さっそく「都道府県の区分」図に「静岡県」の名前を見つける子がいるかと思えば、「日本列島を見わたす地図」にも「中部地方のくわしい地図」にも静岡県が載っていることに気づく子がいる。さらに、「名古屋市とそのまわり」にも、「関東地方のくわしい地図」などにも静岡県の一部が載っているという声が上がります。それぞれの地図を見比べると、同じ静岡県なのに、違うことがいっぱいあることに気づく。大きさが違ったり、載っていることも詳しくなったり、一つのことを強調したり、イラストが加わったりすることなどが、気づきの例である。一見すると詳しいほど便利だという子が多いが、交流先の東北の学校との位置関係を調べるには日本全図のほうが見やすいという意見も出てくる。



目的によって使い分けたり、地図にはいろんな情報が盛り込まれていることをわからせたいと思う。

話し合いを進めていくうちに、「地図帳の後ろのほうの『わたしたちの国土』のところを見ると、静岡県という文字はないけど、静岡県の特徴がわかる」、「『日本のすがた』のところは地図は何にもないけど、やっぱり静岡県のことが載っているよ」、「『おもな地名のさくいん』というところを使うと『◎あたま熱海[静岡]30キ6』みたいに書いてあって知りたい地名を地図で探すのに便利だね」ということに気づく子も出てくる。

子どもたちの気づきを学級全体に広めていくことを繰り返していくと、いつのまにか地図帳を丸ごと見わたすことができる。この授業で直接触れるのは「静岡県」だけだが、子どもたちの興味はさまざまな形で広がり、「今度旅行に行く東京を調べてみようかな」「外国のことも載っているみたいだぞ」と休み時間や放課後でも、地図を片手に話をする子どもの姿を多く見るようになる。



### 3. 地図を使える子どもたちに

低学年のうちから、絵地図をもとに学区の探検をしたり、調べたことを地図にまとめたりする経験は、多くの子どもがしている。しかしながら、その段階の地図は学習の目標に直結した情報が中心に書かれている。そんな地図は使えても、地図帳のようにさまざまな情報が盛り込まれているものを生かし切れない子がいるのも事実である。そんな子どもをなくすために、子どもたちの興味を沸き立たせつつ、地図帳の魅力をいろいろな角度からとらえ、子どもたちとともに確認し合う授業は、地図帳と初めてであう4年の最初の社会科の授業では必要であるように考える。